
壊された世界の壊れた人たち

赤倉 石人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

壊された世界の壊れた人たち

【Nコード】

N8739L

【作者名】

赤倉 石人

【あらすじ】

オカルトと呼ばれるものが衰退し、SFにすら発展しそうにな
いまま戦争とかで滅びそうな世界。

そんな世界を神は力づくによって改変し、一つの物語が幕をあ
ける。

主人公に成り行く人が消された物語が。

ブログ？（前書き）

始めまして。

赤倉石人と申します。

この作品は私の処女作であり大変見苦しいものと思いますので、ご批判・アドバイスじゃんじゃんお願いします。

また携帯からの投稿、不定期更新になりますのでご了承ください。
いします。

ブログを追加しました

プロローグ？

主人公とは何なのだろう？

考えるまでもない。

物語の主要人物にして、物語で欠かすことのできない人物、それが主人公だ。

少しならまだしも、始まりから終りまで出てこない人物を、主人公と呼べはしない。

じゃあ自分は？

その問いに対して、違うと即答できるのは、脇役としての悲しい性だろうか。

とりあえず、始めまして。

私の名前は、田中太郎。

ただのしがない脇役にして、この物語の語り部でございます。

えっ、誰に話しかけているかって？

ほら、あなたですよ、あ・な・た、ハート。

ごめんなさい。自分でやってて、正直死にたくなりました。

「おい、そろそろいいかのう、篠崎純也。」

「うるさい黙れ、僕は現実逃避に忙しいんだ。」

前に立つ爺がうるさいです。人が現実逃避にいそしんでる時に話しかけないで貰いたい。

えっ、名のつた名前が呼ばれた名前と違うって。

初対面の人には偽名を名のる、それがマナーです。次のテストに出るから覚えときなさい。

「いい加減、現実に戻ってきて欲しいんじゃないが。」

「目の前で手を振るな、鬱陶しい。」

しかし、まことに残念ながら爺が言っている事は正しい。

いい加減、あの喋り方も辛くなってきたことだしね、キラッ。

.....

あー、ゴホンッ。別に自分の痛さに悶えてたわけじゃないからね。とりあえず話を変える事にして。

僕、篠崎純也が、何故あそこまで現実逃避にいそしんでいたか、話は少し前に遡る。

とまあ、そんなに都合良く回想編に突入するほど、現実には甘くなかった、まる。

しょうがないから、自分で現状を説明しよう。

中流家庭の、ごく平凡な男子中学生の部屋。

机やテレビといった、当たり障りのない物が置かれた部屋には、なんかやたらと偉そうな爺と、それに対面するようにいる犬が存在していた。

もう一度言おう。

偉そうな爺と、犬がいた。

さらにもう一度。

犬がいた。

「そうなんだよ、犬なんだよ。なんで僕が犬になってんだよ！」
「いや、散々わしをキガイあつかいしたんじゃ。当然の報いじゃろつ。」

「当然の報いじゃ、じゃねー。いきなり人の部屋に入ってきて神を名のる人間がいたら、とりあえず警察を呼ぼうとするのは当然だろ。」

そう、目の前の爺はゲームをやっていた僕の前いきなり現れ、神を名のりだしたのだ。

しかも、そのせいか知らないけどゲームはフリーズしてしまい、僕の五時間に及ぶ努力がすべてパーになった。

それにブチギレて、散々キガイ扱いし、警察を呼ぼうとしたら犬にされてしまったのだ。

と、そこで僕は気づく。

あれっ？ 犬になってるのに、普通に日本語しゃべってないか、僕。

うわ、やべー。さすが僕クオリティー。

犬になっても日本語喋れるとか、もうテレビに引っ張りだこだね。テレビ出演料やらなんやらで僕の人生、いや犬生うはうはだね。

「何故か勘違いしているようで悪いんじゃが、お主が喋れるのは、わしがそうなるようにしているからじゃぞ。あと、お主、冷静になつてるように見せかけて、実は冷静じゃないじゃろ。」

ななな、なんだってー。

僕が喋れるのは、僕クオリティーじゃなくて、爺クオリティーのせいだと。

それなら、この爺が喋れないようにすれば、僕は話すことができるのか。

終わった、僕の将来設計が。

ならばせめて犬らしく文句を言ってやる。

「ウー、ワンワン。」

さすがだね、僕。

今のはもう、どこに出しても可笑しくなくらい犬らしい吠え声だった。これでもう、犬としての一生を歩めるね。

「って歩んでどうする!」

「お主、犬みたいに吠えたり一人漫才したり、一体何がしたいんじや。」

うん、自分でもよくわからないよ。

「で、話を戻すとして、現実問題いきなり神を名のる人物が出たら、キガイ扱いするのは当然だと思っただけど。」

「いや、現在進行形で1000万人近くの人間が信じているんじやが。」

ブフッ。

「いや、信じすぎだろ。どうなっただよ世界の人々。なに、疑おうとかそういう心は存在しないの!」

「逆に信じない人間がいたことに、わしは驚いているんじやが。」

いや、そういわれても。いきなり、後光を差すやたらと偉そうで長い白髭をした、白いローブ着て木の杖を持った爺が何も無い空間から現れて、自分を神と名乗っても誰も信じないだろ。

……あれ、この爺、神じゃね。

うん、冷静に考えるとすごい神っぽい。

「申し訳ありませんでしたー。」

そりゃあもう、全力で土下座を開始する。

「フオッフオッフオ、わかればいいんじゃないよ、わかれば。」

「いやあ、本当に申し訳ありません。まさか、貴方のような方を変態糞髭キ　ガイ爺呼ばわりするなんて。」

「つてお主、わしのことをそう思ってたのか。」

「いやあ、そんな、変態糞髭てゆうか髭長すぎてキモイんだよ頭大丈夫かキ　ガイ爺、なんておもってませんよ。」

ゲームをフリーズさせられて、犬にされた恨みもあつてか思わず口にでる本音。

そんな僕の本音に、神はピキツ、と青筋を立てていらっしやる。
やばい。どうやら言い過ぎてしまったらしい。これ以上変なのにされたくない。

「いやあ、冗談ですよ、冗談。イツアメリカンジョーク、みたいな。」

「いや、何も言わんでも大丈夫じゃよ。お主がわしの事をどう思っているかよくわかった。」

「えーと、できればその杖を下ろしてほしいなー。」

「駄目じゃ　蛙になれ。」

僕の悲痛な訴えも虚しく、振り下ろされる杖。
ポフンッ。

そんな音ともに煙に包まれながら、僕は思う。
カルシウム取れよ、キチガイ爺。

あつ、伏せるの忘れた。

プロローグ？（後書き）

書く事が思い付かないo r t

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8739/>

壊された世界の壊れた人たち

2010年10月17日09時13分発行